

船舶インシデント調査報告書

平成28年5月26日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

インシデント種類	運航不能（機関故障）
発生日時	平成28年1月3日 14時00分ごろ
発生場所	東京都大田区東京国際空港東方沖 東京沖灯浮標から真方位020° 930m付近 (概位 北緯35° 33.0′ 東経139° 51.6′)
インシデントの概要	プレジャーボートYORONは、航行中、主機の運転ができなくなって運航不能となった。
インシデント調査の経過	平成28年1月5日、調査を担当する主管調査官（横浜事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済み
事実情報	
船種船名、総トン数	プレジャーボート YORON、5トン未満（長さ6.56m）
船舶番号、船舶所有者等	230-35758埼玉、個人所有
乗組員等に関する情報	船長、二級小型
負傷者	なし
損傷	なし
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 南南東、風力 1、視界 良好 海象：海上 平穏
インシデントの経過	<p>本船は、主機操作盤の冷却水温度の上昇を示すランプが点滅するとともにブザーが鳴り、機関室から白煙が噴出したので、船長が主機を止めて機関室を点検したところ、‘清水冷却器一体型の膨張タンク’（以下「本件膨張タンク」という。）の冷却清水量が減少していた。</p> <p>主機は、間接冷却方式であり、冷却海水が、ドライブユニットの海水取入口から海水こし器、潤滑油冷却器、空気冷却器、本件膨張タンクを通して熱交換を行った後、ミキシングエルボで排ガスと混合されてドライブユニットの排気口から排出されるようになっており、また、冷却清水が、本件膨張タンクで冷却海水と熱交換をした後、シリンドライナ、排気マニホールド、過給機を冷却した後、温度調節弁を通して本件膨張タンクに戻って循環するようになっていた。</p> <p>主機は、本インシデント後、機関修理業者により開放点検され、‘主機の冷却清水系統の過給機と温度調節弁の間をつなぐ樹脂製のホース’（以下「本件ホース」という。）に亀裂を生じ、冷却清水が漏れていることが判明した。</p>
分析	本船は、本件ホースに亀裂を生じて冷却清水が漏れていたことから、冷却清水量が不足して過熱し、主機の運転ができなくなったものと考えられる。
原因	本インシデントは、本件ホースに亀裂を生じて冷却清水が漏れてい

	たため、冷却清水量が不足して過熱し、主機の運転ができなくなったことにより発生したものと考えられる。
--	---